

# 歩行空間の確保と道路景観の向上

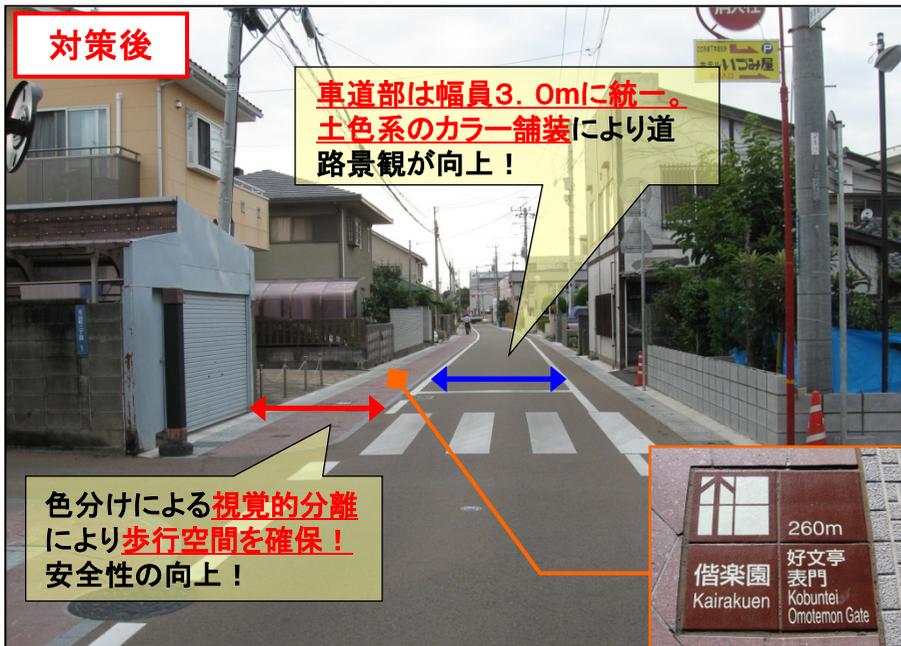
## — 県道常磐公園線(通称:偕楽園御成門通り)の再整備 —



○県道常磐公園線は・・・

県道水戸岩間線や歴史館から偕楽園御成門や表門を結ぶ延長約300mの偕楽園アクセス道路。

しかし当路線は、住宅地内を抜け、幅員が狭く、駐車場も無いため、アクセス道路としての認知度が低く、現在は交通の利便性から、東門などへのアクセスが一般的。



対策後

車道部は幅員3.0mに統一。  
土色系のカラー舗装により道路景観が向上!

色分けによる視覚的分離により歩行空間を確保!  
安全性の向上!



【目的】

☆偕楽園の創設者、徳川齊昭の思想を受け継ぐ!!

徳川齊昭は、表門から好文亭を経て梅林へと辿る道筋を主動線として、陰陽思想に基づく明暗の対比の絶妙を演出。

そこで、当該道路について、歩行者が安心して通行出来る空間を確保し、徒歩によるアクセスの向上を図ることで、徳川齊昭の思想性が感じられる表門からの動線へ導き、偕楽園とともに歩く事を楽しめる観光道路を目的として整備を実施。

【整備内容】

- ・路肩部⇒自然石張り舗装(弘道館入口の石畳をイメージ)  
埋込式の案内板(表門までの距離を表示)
- ・車道部⇒土色系のカラー舗装(偕楽園園路をイメージ)